

第7回 電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会 議事要旨

平成 26 年 1 月 31 日（金）
13 時 30 分～15 時 40 分
伊勢市商工会議所 5 階大ホール

1. 開会 (事務局)

・定刻となりましたので、今から第7回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会を開催いたします。開会にあたりまして、三重県環境生活部長竹内望よりご挨拶申し上げます。

(事務局 三重県環境生活部長 竹内)

- ・みなさまお忙しいところ、当協議会にご参加いただきましてまことに有難うございます。
- ・昨年3月になりますが、行動計画ということで「おかげさま Action!」を策定、本年度はその実行年ということで連携のもとでいろいろな取り組みを頂いています。
- ・1人乗りの電気自動車購入、NTN様からの超小型モビリティの貸与、そういったものの活用により、伊勢市内で電気自動車の走る姿が見えるようになってきました。市内の方にも低炭素社会を考えていただく機会になっているかと思えます。
- ・電気自動車に必須の充電器については、経産省の補助を受けるために県がビジョンを策定し、これを確認する流れになっています。現在は伊勢市内約10箇所が新規設置予定になっています。
- ・7月に協議いただいた電気バスについては、三重交通様に導入を着々と進めて頂いています。予定では3月末頃にお披露目して頂ける運びです。
- ・こういったかたちでみなさまのご尽力で一定の成果が見えています。大変有り難く思っております。
- ・作業部会で熱心に議論頂いた充電指針、観光ドライブコースなどの内容についてご議論ご協議頂くことになっています。ぜひ活発にお願いしたいと思います。
- ・また来年度も引きつづき、低炭素社会の実現をめざして、この事業がうまくいくようしっかりやっていきたい。よろしくお願いたします。
- ・最後に、お手元には三重県環境生活部で担当している4月19日に開館の新博物館のチラシをお配りしました。ぜひ足を運んでいただきたいと思いPRさせていただきました。
- ・本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

- ・続きまして、藤本伊勢市副市長からご挨拶をいただきます。

(藤本副市長)

- ・みなさんこんにちは。昨年の12月に伊勢市の副市長に就任いたしました藤本でございます。よろしくお願いたします。

・この場をお借りして恐縮ですが、朴先生にはこの協議会のリーダーとして、また伊勢市の環境行政に広くお力添えを頂いております。感謝申し上げます。みなさまにおかれましても、それぞれのお立場でそれぞれの役割で行政にご協力頂いておりますこと、有難うございます。

・低炭素社会の実現に向けたモデル地区として、唯一伊勢市が手を上げさせていただきました。この街づくりに向けて今後成功していくかどうかは、まさにこの協議会の取り組み如何になると思います。伊勢市としても、市長以下「環境に配慮した街づくり」を標榜しておりますので、一生懸命取り組んでまいります。みなさんにおかれましても、お知恵、ご協力を頂けますようお願いいたします。

(事務局)

・どうもありがとうございました。続きまして、この協議会の会長の朴様にごあいさつをいただきたいと思います。

(朴会長)

・みなさまこんにちは。早いもので(この協議会の開催も)7回目となりました。

・振り返ってみますと、「低炭素社会をめざしたモデル事業」は、言葉ではわかりませんが、具体的に何をすれば低炭素社会のモデルになるのか、(はじめは)非常にわかりにくい状況でした。私が言うまでもなくみなさまはご存知と思いますが、日本の国のみなさんが何を考え、どういうかたちでここまで来られたのか、原点を辿って考えるうえでもこの伊勢抜きに語ることはできません。(その伊勢市で)地球温暖化を含めて環境を総合的にとらえ、環境と経済のバランスをとりながら低炭素社会という新たな社会をつくっていく...、その希望、その期待はあまりにも壮大だったため、本当にうまくいくのかという心配もありました。

・そのような(心配もありながら)スタートを切って、支えになったのは、この地域で生活をしている13万の市民でした。しかし(支えになったのは)それだけではありません。さまざまな職種の企業(の存在がありました)。低炭素社会というものの考え方として、「どこに行くにも足となる“車”というものを、どう考えるのか」(に着目した)。そのキーワードを拾った瞬間に、道は開けたのではないかと思います。あらゆるメーカーさん、事業者さんのリーダーシップがなかったらここまで来ることはできませんでした。

・さらに、それを後ろで支える行政(の存在も見過ごすことはできません)。先ほど県の竹内部長や伊勢の藤本副市長様からお話がありましたように、リスクがあったとしてもまずどこかが手を挙げなければ進むことができない状況から、まず手を挙げて頂いた。その決断とバックアップするシステムがなければ、胸を張れる成果をあげてここまで来ることはできなかったのではないのでしょうか。

・このような三位一体の成功事例を、伊勢から発信をしているというのは紛れもない事実であり、すでに次のステップに行かなければならないことも確かです。

・「おかげさま Action!」。それが伊勢の人ではなく、式年遷宮で伊勢を訪れた百万人の人だったとしても、この「おかげさま Action!」という言葉が聞けば、(いまでは)「伊勢」を連想されるようになったのではないのでしょうか。

・(この協議会の)5つのワーキングでは、朝昼ない(活動をする)ようなときもありました。(しかし)それぞれのところでいろいろなチャンスをつかんでアピールをする、そんな積み重ねがあったと思います。

・(この活動がまだ)終わっていないのに終わったかのようなあいさつをしています、その理由は、何かをつかんだと思ったときが、成功と失敗の分かれ道だと思っているのです。くらいトンネルの中で必死でもがき、ふと明るい光が見えたとき、私たちは人間ですから、気を緩めてしまいがちなのです。そこに留意し、私たちは今までやってきたことを忘れずに、原点に立ち返りつつ(やり続けなければいけません)。上を見据え続けてやっていくような新たな決意がないと、消えてしまうような懸念があるのです。私たちの道のりはまだまだ(続いているものであり、今は)一つのステップが終わり、次のステップに行く段階(であるに過ぎません)。どのぐらいのステップを踏めば「成功した」と言えるのかは、これから見えてくることでしょう。そう考えると、今日ここに提示されている議題は、あくまでも次のステップに進むためのスタート。それを解っていただければと思います。

・伊勢(のこの取り組み)はこれからもずっと続くもの。私たちがこの場で話し合うというこのことを、後世の人たちに「すごいことを考えてくれていたんだ!」と思ってもらえるよう、頑張りたいと思います。ここに居るのは2時間余という限られた時間ではありますが、どうか実りの多い会議になるよう、(頭を)フル回転させたアイデアや提言、新たな提案、ときには苦言を、ざっくばらんに遠慮せずに、本音でみんなが言えるよう、ご協力をお願いいたします。

・力ない会長ではありますが、みなさんの話を聞く能力にかけては自信があります。次のステップが見えたので頑張っていきましょう。

(事務局)

・朴会長どうもありがとうございました。

・この後、お手元の議事次第に従って進めて参ります。もうしおくれましたが、私は三重県地球環境対策課の森口と申します。

・資料確認

2. 新規参画者の紹介

(事務局)

・今回の協議会から、パナソニック(株)エコソリューションズ社様に参画を頂いております。それでは簡単に自己紹介をお願いいたします。

(パナソニック(株)エコソリューションズ社 寺川様)

・みなさまこんにちは、パナソニック(株)の寺川と申します。EV充電器の担当をしております。本日よりよろしくをお願いいたします。

(パナソニック(株)エコソリューションズ社 遠藤様)

・同じく遠藤と申します。私は三重の津を中心にこの活動をしておりますので、今後とも

よろしくお願いいたします。

(事務局)

・どうもありがとうございました。

3. 議題

(事務局)

・議題以降の進行を朴会長にお願いしたいと思います。

(朴会長)

・事項書に基づきまして進行をさせていただきます。

(1) 充電施設設置運用指針について

(朴会長)

・事務局の方からご説明をいただき、みなさんからの質問・コメントをいただきたいと思っています。事務局よろしくお願いいたします。

(事務局)

・三重県地球温暖対策課の太田と申します。

・資料2に基づいて説明させていただきます。(以降、資料2の内容説明)

(朴会長)

・これにつきまして、質問やコメントはありますか？

(三菱自動車工業(株) 水野様)

・質問ではありませんが、データの確認をお願いいたします。「おかげさま Action! EV・PHV用充電器設置ガイドブック Ver.1.0」4ページめ「電気自動車(EV・PHV)とは」中、「現在、国内で販売されている主なEV・PHVについて」に、それぞれの走行距離や充電時間が記載されていますが、私どものアウトランダーのプラグインハイブリッド車のデータでは、200V、50kWの急速充電時間が「15分」となっていますが、「30分」だと思います。確認をお願いします。

・また、(同表に関し)私どもの車ではありませんが、アコードのプラグインハイブリッド車のデータは200Vコンセント使用時と100Vコンセント使用時のデータが逆だと思います。併せてご確認をお願いいたします。

(朴会長)

・ありがとうございました。事務局、確認をお願いいたします。必要であれば修正をお願いいたします。

(事務局)

・(今の件に関し)間違っているように思いますので、再度資料を確認させていただき、修正したいと思います。

(朴会長)

・ありがとうございます。そのほかにありますでしょうか。(挙手なし)

(2) 小型EVで周る観光ドライブコースについて

(朴会長)

・ひきつづき、(事務局から)説明よろしくお願いたします。

(事務局)

・資料3に基づいて説明させていただきます。(以降、資料3の内容説明)

(朴会長)

・ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、みなさまからのご意見などございませんでしょうか?この協議会は、観光、産業振興などいろいろな部分が絡んでいると思います。特に(この内容は、)「観光ドライブコース」ということですので、伊勢市の観光(担当部署)からの補足説明やアピールはありますか?

(伊勢市産業観光部観光企画課長 北村)

・私もこの部会に入らせていただき、(提案された)5つのコースを出していただきました。事務局から説明があったように、本当は外宮・内宮間を走って頂くのが一番いいかとも思います。しかし、今日の議題にもあるように電気バスのこと(走行予定)もありますし、外宮・内宮間の交通(状況)のこともありますので、こういった観光スポットを回って頂くのが一番ではないかと、作業部会の方で話をさせていただきました。

・気になるところといたしますと、やはり駐車場のことです。

・また今後、(このドライブコースの案内を)冊子にしていくという話もありますので、写真などで注意を払って作っていただければと思います。

(朴会長)

・ありがとうございました。

(事務局)

・説明が漏れておりました。資料3の1枚目をめくっていただくと(裏側の2ページ目に)「留意事項」を記載しております。これは作業部会の中で今後の検討事項としてあがった留意事項などを記載しています。(以下記載内容説明)以上を踏まえて、(今後は)取り組んでいきたいと思ます。

(朴会長)

・ありがとうございました。説明を聞いたみなさんの中からもいろいろなご意見があったのではないかと思います。これからも作業部会で進めていくわけです。みなさんの方で「この部分を先にやって欲しい」とか、「もっとこういうことを入れるべきではないか」などいろいろな意見があると思います。いかがでしょうか。

(トヨタ自動車株式会社 直井氏)

・質問です。(電気自動車は)モニターツアーでの使用、それから将来的なドライブコースでの使用で運用されていくことになると思いますが、お客様が体験される場合に費用がかかるかどうかに関して確認させていただきたいと思います。

・せっかくこのようなことをやってお客様が来なければ寂しいですから、人気が出たら良いと思います。もしご検討いただけるのであれば、(ルート内の)それぞれのスポットで、(来訪客が)割引が得られるなどの特典などを利用できる仕組みがあったらいいと思います。そのようなことも含めてご検討いただいたらどうかと思います。無責任な意見ですみません。

(朴会長)

・ありがとうございました。

(事務局)

・特典の検討に関しては、伊勢市の観光サイドからも「観光協会さんといっしょに進めることが可能ではないか」という話も出ておりました。

・モニターツアーなどで観光していただく際には、モニターツアーの段階でどうするか(という論議)はありますが、やはり料金を徴収して乗って頂く必要があるのではないかと考えられます。

・(その際)「無料なら(観光客が)来たが、料金を徴収したら来なくなった」というのではいけないので、実証的にやっていく段階でも、料金を徴収して試していくことが必要だろうというお話しも出ておりました。

(NTN(株) 松尾氏)

・昨年も協議会で進めて頂いたと思うが、国交省から頂いている超小型モビリティの認可計画においても、観光のモデルコースを定着した後は、やはり遷宮を機に残るような伊勢ならではの事業を、コンピューターならではの取組でつなげていって欲しいという熱い思いがございました。鉄道で来て、バスも利用して、もちろん徒歩、自転車も。それを網の目のように(つなげるということ)ですね。

・これは最後の議題にも関係してきますが、モデルコースを5つぐらいやってみようということになったら、(今後)これをモニター(ツアー)のようなかたちでブラッシュアップして(いただく)。(さらに)次のステップとしては、駐車場のようなステーションをつくりながら、1way やシェアリングのようなかたちにすれば、日本で初めての「EVお伊勢詣

り」のようなコースを定着させることができる。(そうすれば)外宮・内宮以外のところの(観光の)モビリティにも役に立つわけです。そうすれば、一番最後の(来年度の取組のところにも出てくる)シェアリングのところにも関係してきます。

・(これから)良いシーズンになってきます。桜が咲く良いコースもございますので、ぜひ協議会のメンバーのみなさまには試乗会に参加していただき、市民の方にも乗っていただきたい。そうしながら、定着化させて事業化に持ち込む、と。超小型モビリティの提供をしている私どもとしましても、ぜひそのような動きをお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

(朴会長)

・ありがとうございました。いま出てきているご質問、ご意見はかなり重要な部分です。作ったのは作ったが、(人気)さっぱりというのでは一番困る。魅力的なものをいかにして創りあげていくか。またビジネスベースをいかに考えるかということではないかと思ひます。大変だと思ひますが、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

・コースにおいては、車で来る人もいますが、鉄道で来ている人には何かパッケージにして、より特典が得られるようにやっていくとか(のアイデアが欲しい)。

・(また)若い人の間では、パワースポットというようなことに関心が寄せられているようなので、「回ってみたいな」と思わせるような魅力の部分盛りこんだアピールの仕方(を考へてはどうかと思ひ)。(同時に)物語と形式などいろんな部分を合致させていくにはどうしたらいいかといった、戦略的な部分も考へなければならぬと思ひます。

・ここで一つ提案です。限られた部会のメンバーだけでは大変ということであれば、協議会、あるいは協議会のメンバーが部会にも行って参加し、さらに話し合いにも参加をするといったようなメリハリある方法を考へて頂けると大変有難い。また、部会の中に部会があってもいいのです。臨機応変のかたちをとっていただき、できるだけ早く成果をあげる、ないしは提案をして頂ければと思ひます。このようなかたちは、事務局として可能でしょうか？

(事務局)

・さきほど松尾様から話がありましたが、ぜひコムスやNTNの超小型モビリティに乗って、積極的に周って見て頂けると良いと思ひます。私たちも周って見て解ったのですが、たとえば、松尾観音に行くと「ここは床板に龍が浮き出てきて、それを触ると御利益があるんだよ」などというお話を頂いたり、あるいはお茶のおもてなしを頂いたり、素晴らしい体験をすることができました。行く度に、違った地元の人のおもてなしや歴史話に触れると思ひます。これは周って見て初めて解ること。皆様方にもぜひ試乗をしていただきたいと思ひます。

(朴会長)

・ありがとうございました。その他にこの部分についてみなさんからのコメントはありますか？(挙手なし)

・最後にも本日の議題全体についてコメントをいただきますので、よろしくお願ひいたし

ます。

(3) シンボルマーク・ピクトグラム デザインマニュアル

(朴会長)

・ひきつづき、説明をお願いいたします。

(事務局)

・資料 4 に基づいて説明させていただきます。(以降、資料 4 の内容説明)

(朴会長)

・ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、質問ありますでしょうか？

・私の方から 1 点。資料 4 の 4 ページめ。(急速充電スポットを表す表示について)「QUICK」となっている。この表示でも急速充電であることが解ると思うが、漢字のバージョンなどは不要でしょうか？

・また、急速の場合は電圧のバリエーションはないのですか(200V だけなのですか)？

(事務局)

・このルールは設置のガイドブックをつくるのと併行して進めていきました。急速充電器の表記に関しては、作業部会でも議論にあがりまして。いま、最も全国的に普及しているといわれる看板は東京電力がつくったもので、「EV QUICK」という水色の表示です。それを一般的とみなし、「QUICK」とさせて頂きました。

・「急速」という(漢字表記のバージョンが)必要という意見があれば、修正しても構わないと思う。

・また急速充電についての電力表記は不要で、一般の方が使用する場合は「100V」もほとんどありません。が、表記としては必要なのでつくっておいた次第です。

(朴会長)

・ありがとうございました。いろいろ議論された結果(がこのデザインマニュアル)であるということですね。よく解りました。

・その他にありますでしょうか？(挙手なし)

(4) 普及啓発の取組状況

(朴会長)

・普及啓発の取組状況について、説明をお願いいたします。

(事務局)

・資料 5 に基づいて説明させていただきます。(以降、資料 5 の内容説明)

(事務局)

・ひきつづきまして、資料6は超小型モビリティ活用による実証事業の状況報告となっております。こちらの方はNTNの松尾様からご説明をお願いしたいと思います。

(NTN(株) 松尾氏)

・超小型モビリティの認可につきましては、協議会を代表して県知事申請、認可ということで車両管理の一切を担当しております私の方からご報告したいと思います。

・資料6の項目は国交省運輸局への報告事項にもなっております。

・(以降、資料6の内容説明)

・(NTN(株)伊勢駐在事務所 伊藤氏の紹介)

・(追加資料として「日経 automotive technology express」を出席者全員に配布)

(朴会長)

・ありがとうございました。ただいま資料5,6に基づいた説明がありました、何かありますでしょうか。

(NTN(株) 松尾氏)

・低炭素社会への取組ですので、私の方でとった二酸化炭素削減量のデータをご紹介しますと思います。今までの二ヶ月あまりの実証結果を報告します。比較対象としては軽自動車が一番良いと思います。(一般的な軽自動車は)1リットルでおよそ20kmぐらい走行することができることにします。現在、1リットルあたり160円ぐらいとすると、軽自動車は1km8円ぐらいになります。一方私どもの超小型モビリティのデータでは、中部電力の夜間電力であれば1km1円ぐらい。昼間の電力料金であれば、1kmあたり2.6~2.7円ぐらいになるという実証データが千数百kmの走行による実証データとして算出されています。

・CO2の排出量につきましては、環境省からCO2の排出係数が出ておりますのでその資料を使いますと、今のところガソリン車に比べて54%の削減、つまり半減しているということが言えます。

・仮に伊勢市が、スイスのツェルマツトのように、電気自動車でパークアンドライドするような街になると、CO2が半分以上減ると言えます。

(朴会長)

・貴重な情報をありがとうございました。

(5)今年度の取組概要と来年度の取組

(朴会長)

・最後の議題になりますが、まず説明をいただき、みなさんの意見を頂戴します。

(事務局)

・資料7をご覧ください。(以降、資料7についての内容説明)

(事務局)

・ひきつづいて資料7-2として「小型EV等の活用検討会」として提案資料をつけさせて頂きました。その説明をさせていただきます。(以降、資料7-2についての内容説明)

・なお、外国の事例など、以前関わってみえてお詳しいNTN松尾様の方から、補足説明をお願いしたいと思います。

(NTN(株) 松尾氏)

・NTNの社員としてではなく、前職でフランスにありますがOECDというところの担当局長をやっておりましたので、その経験からお話しさせていただきます。そのころは交通政策の委員会、環境政策委員会、また交通政策の委員会の中では電気自動車のワーキンググループを立ちあげて2004年まで担当しておりました。(以降、資料7-2「参考資料」に基づき補足説明)

(朴会長)

・一つ提案が出ました。提案としては、小型EVとしての活用に関して作業チームをつくりたいということです。

・現在5つの作業部会がありますが、それを横断するようにつなげるものでも構いません。早急にEVシェアリング、あるいは「おかげさまAction!」が見えるかたちのひとつとして、実行性のある詰め方をしなくてははいけません。メンバーとしてはあらゆる方の参加型によってやって行くという提案でした。2月、明日からでも取り組んでいきたいという有難い提案だと思います。みなさんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。(反論なし)

・ありがとうございました。この部分に関しては事務局がだいぶ前から考えていたこと。今までのノウハウをさらに活かしていくための横断的なものとし、熱意のある方には声をかけてメンバー(づくり)をお願いしたいと思います。

・承認をする、共通理解や認識を深めるといったことが必要になりましたら、協議会に(提出してもらえよう)をお願いしたいと思います。

(事務局)

・ありがとうございます。それでは(それに伴い)実際にカーシェアリングを展開されているタイムズさんの方から、実際に行っているカーシェアリング事業についてご紹介をお願いします。

(タイムズ24(株)伊勢崎氏)

・わたくし、カーシェアリングと駐車場事業を全国で展開しております「タイムズ24」という会社でカーシェアリングを担当しております伊勢崎と申します。5分ほどお時間をいただき、カーシェアリングの位置づけと、我々タイムズが行っている「タイムズカープラス」という事業の内容についてご説明させていただきます。

(以降、配布済資料「カーシェアリングサービス『タイムズカープラス』のご案内」説明)
・今回、伊勢市様へのご協力を我々ができる部分としては、鉄道事業者、宿泊施設、商業施設との連携(ができると思う。また)なによりも、(タイムズ24は)全国に30万人の会員さんがおりますので、その会員さんを伊勢市の方に呼び寄せてくることへのご協力もできるのではと思います。

(朴会長)

・ありがとうございました。これで本日の議題5つがすべて終わりましたが、ただ今の説明もふまえ、補足説明や質問がありましたら承ります。(挙手なし)

・ありがとうございました。カーシェアリングを含め、小型EV等についての活用に早急に取り組むことになりましたので、よろしくおねがいいたします。

4. その他(今後のスケジュール)

(朴会長)

・最後のところ、その他として今後のスケジュールとなっておりますが、事務局の方からお願いします。

(事務局)

・今年度の取組はまだ終わってなく、継続してやって参りたい。シェアリングの事業についても検討を始めたいところです。そうは言っても年間ごと取組をまとめてもいきたい。3月末までの取組についてまとめさせていただき、年度が替わってからみなさまに報告させていただけたらと思います。特に緊急なことがなければ、年度が替わってから、みなさまと(次回協議会の開催)日程を調整させて頂きたいと思います。

(朴会長)

・よろしくおねがいいたします。

・三重交通さんの電気バスに関して、何かアナウンスありますか？

(事務局 三重県環境生活部地球温暖化対策課長 鈴木)

・三重交通さんの方からは、平成25年度3月末導入をめざして準備中ということ聞いております。

(朴会長)

・その他にありますでしょうか？

(NTN(株) 松尾氏)

・県の方へのご質問です。(昨年の)遷宮につづき、今年はいよいよ熊野古道世界遺産指定10周年という年を迎えます。県サイドの取組の中には熊野古道の電気自動車の導入があると聞いています。

- ・私ども（NTN）も和歌山県に紀南製作所がございます。（先日の）日曜日も、熊野古道マラソンにEV車の提供でご協力しておりました。
- ・伊勢-熊野古道の連携というのは（計画は）あるのでしょうか？

（事務局 三重県環境生活部地球温暖化対策課長 鈴木）

・先ほどご質問に出ましたとおり、平成26年で熊野古道（世界遺産登録）10周年ということになります。熊野古道-伊勢路、伊勢から熊野三山というルートもございますので、この伊勢市の取組を、場所的には東紀州中心になると思いますが、熊野古道との連携をどうとれるか。それについても検討してまいりたいと思います。

（朴会長）

- ・ありがとうございました。
- ・やはり伊勢は、「拠点」。低炭素社会をつくっていくモデル事業として（当協議会が）やってきた。
- （そこへ）幸いなことに式年遷宮と連動することができ、いい成果があがってきた。それに関してはご存知の通りです。
- ・ここから次のステップに行くときに、内面をより充実化していくこと、プラス、外にもノウハウを分けていく。それも使命の一つだと思います。
- ・先ほど出ましたように、ユネスコ世界遺産登録10周年の熊野古道。伊勢を拠点にした伊勢路という関連もあります。そこで、どのようにノウハウを展開していくのかも大変重要な部分。伊勢という「拠点」からどのようにあみの目を広げていくかが、戦略的に考えなくてはいけない部分として提案がされていると思います。
- ・ユネスコ世界遺産登録10周年の事業は県のものかと思いますが、伊勢の（この協議会の）取組を発展していくような取組を、庁内で討議提案されているのか、これからなのか、言える範囲で構いませんので、動きについての情報をお願いします。

（事務局 三重県環境生活部長 竹内）

・来年度10周年を迎えるにあたり、いろんな取組を（考え、進めている）。県庁の中でいうと、地域連携の中の東紀州対策局という部署があり、そこが熊野古道に関する取組の中心的な役割を担っています。いろいろな形で（多部署が）絡んでおり、全体的な面は本県庁で考えています。そのような状況にあってEVを使った横展開的なかたちは、まだ具体的に整理ができていず、これからのもの。今後の検討事項だと思っています。

（朴会長）

- ・もし何か（連携する具体的な動きが）あるとすれば7-8月かと思います。せっかく（この協議会に県の方々）いらっしゃることですから、ぜひ環境生活部にイニシアチブをとっていけるチャンスかと思います。
- ・この話に関しては、世界遺産を守るという意味でも意義のあることです。どうかよろしく願いいたします。
- ・この協議会からの対応が必要であれば、説明なりなんなり（私が）伺うことも可能です。

(私は)大学(で教鞭を執っている)というもう一つの顔ももっています。伊勢とともにやってきたものを県内で拡げていけるよう、チャンスをつかみたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

(NTN(株) 松尾氏)

・今の件へのご参考までに。昨年、認可の申請にあたり、三重県の雇用経済部さんと直接お話しをさせていただきました。その時はまだ検討段階ということではあったのですが、桑名市が同じように電気自動車への取組、スマートシティ構想を検討したいと言っている(との情報がありました。ですので)限られた地域での運用認可を受ける超小型モビリティの申請の中には、すでに桑名市が入っています。

・桑名市は「七里の渡し」という視点から桑名市を拠点にした伊勢へのコースも考えられます。

・国土交通省(に対して)も、もし地域をつけ加えるのであれば、車両が同じであれば技術審査の方は簡単です。県の方で(エリアを)つけ加えるだけなので、拡げることができます。また(ご検討)よろしく願いいたします。

(朴会長)

・ありがとうございました。予定していた時間を少しオーバーしており申し訳ありませんが、みなさんの方からの周知・連絡・アピールがありましたら、少し時間をとりたいのですが...(挙手なし)

・それでは、今日の議題すべてが終わりました。ありがとうございました。事務局にお渡しいたします。

5. 閉会

(事務局)

・長時間にわたりご協議いただき、ありがとうございました。これもちまして第7回の電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

以上